

やすらぎ



「歎異抄」(第四十二回)

標 暁 講述

「歎異抄」第十六章 続き

信心さだまりなば、往生は、弥陀に、はかられまいらせてすることなれば、わがはからいなるべからず。わろからんにつけても、いよいよ願力をあおぎまいらせば、自然のことわりにて、柔和忍辱のころもいでくべし。すべてよろずのことにつけて、往生には、かしこきおもいを具せずして、ただほればれと弥陀の御恩の深重なること、つねはおもいだしまいらすべし。しかれば念仏ももうされそうろう。これ自然なり。わがはからわざるを、自然ともうすなり。これすなわち他力にてまします。しかるを、自然ということの別にあるように、われものしりがおにいうひとのそうろうよし、うけたまわる。あさしくそうろうなり。

(真宗聖典六三七〜六三八頁)

「信心さだまりなば」と云うのは、決定心という大事な言葉です。私は真宗の教えは聞いておるけれども、あやふやと言うのではない。信心決定というのは、調子の良い時はお念仏をするけど、調子が悪く条件が悪いと念仏が出てこないとか、腹が立つたら立ちっぱなし、ではない事を決定という、信が定まること。

往生という精神生活が決定したら迷うて行かない、信心が定まったならば、自分の精神生活が定まり、迷信を信ずる心がなくなり、民族信仰、民間信仰に振り回されるという事もなくなる。広くいえば善悪の世界から開放される。我々は宿業の身、縁が有れば良い心も起こるし、悪い心も起こる。業報にさしまかして本願をたのむ。真宗の言葉で、撰取不捨の利益を自分の妄念、煩惱、妄想に支配されない世界を会得して、そこから脱落、転落する

光照寺寺報

発行所
真宗大谷派 弘興山
宗教法人光照寺
〒331-0821
さいたま市北区别所町102-2
電話：048-651-2781代
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://www8.ocn.ne.jp/~koshoji
発行人 池田孝郎

事がない自由、そういう事が信心決定である。信心が定まれば往生が定まる、それが自分の生活の中で成り立つのか、立たないのか、を考える。それが出来る様に成ったら信心が定まったという事です。その様に受け止めて聞法して信心定まる様に自分で努力して聴聞して行く。

「わろからんにつけても」とは、自分の欲望など喻えば、同じ人間に生まれて大きな家に住む者も居る、他人はそれを見て良いなと思う。しかし良く考えないで嫉妬心を起こしている悪い心です。道徳的には悪い事はないと思うが、仏法から見れば悪い、「わろからんにつけても」とはそういう心が自分の内側に起こって来てもという事。

「いよいよ願力をあおぎまいらせば」とは、その事をきつかけとしていよいよ本願力をたのむ。悪い心を起こしたらいけないという事ではない、それを縁にしていよいよ本願をたのむ心を充

実して行く。

「ほれぼれ」とは、うっとりするという意味とは違う、一筋に本願のめぐみに感じ入って、小賢しい知的理解を用いない状態を「ほれぼれ」と云う。つまり如来のお恵に依って、自分の善悪のはからい、煩惱を超える事が出来る事を有り難く思つて暮らす事が出来る、自然にお念仏が出る、つまり願力自然とはこの事。

縁次第で色々な悪い事を思つたり、道理に合わない事を考えるのが我々凡夫。

本願を唯一のよりどころとして、凡夫と言う事をあくまで自覚させて頂いて、如来の本願によつて浄土に生まれる事を願わなければならないと云う事がこの章の結論です。(当寺)法話抜粋要約、文責副住職 釈徹照

総会 婦人有志合唱



総会 安来節

報恩講

十月二十六日(日)午前十一時 厳修

光臨寺護持会総会報告

子供会報告

詳細は三頁

詳細は四頁

詳細は五頁

この度は「アポリア」ある命題に二つの対立した結論があること。解決できない問題」という哲学の言葉が脳裏から離れないので、寺報、「やすらぎ60号」の節目でもあり考えてみることにしました。

この「アポリア」は哲学の祖である、ソクラテス、その弟子のプラトン、又、その弟子のアリストテレスが問題としたテーマであり、勿論、洋の東西の聖人、偉人、賢人が問題とし、今日でも根本命題であることは変わりはないことです。もつと云えば人間に枷られた根本的命題であるとも云



えます。この「アポリア」を私なりに表現すれば「絶対矛盾」でありましよう。

二十一世紀に至っても矛盾に満ち満ちております。世界に目を転ずれば、平和を語り戦争をしています。科学万能の世になっても、科学の恩恵と同時に恐怖が表裏であります。自然を克服するとして発展して来た科学の進歩も、大自然の脅威の前には人為的行為はひとたまりもなく崩壊してしまいます。世の為、人の為と善意を尽しても功罪相半ばする。これは一体どうゆうことでありましようか。

ある学者が「精神文明は紀元前に花開き、今日は物質文明が花開く。」と云われる言葉に出遇い「まこと」と頷かざるを得ません。

では本当に精神文明は衰退してしまつたのでしょうか。私が憶えば、決して衰退してはおりません。しかし物質文明、科学文明の底流にしっかりと流れ、先人の足跡を尋ね、そして今日明らかとして伝えられていることに安堵いたします。

この「アポリア」の語を発したソクラテスに帰せば「汝自身を知れ」の言葉に鍵があります。問題は「自己」にあることです。眼を外へ、外へと向け

て、外界の矛盾のみを見て、「白」だ、「黒」だと、始終、一喜一憂しているのでしょうか。内転して自己を内観すれば、矛盾を抱えて呻吟している自己を見い出すであります。矛盾の正体は自己であつたと気づいた先人が紀元前におられたことは幸いです。

では、この矛盾せる自己をどうしたら超えられるのかが問われることです。それは自己を超えた高次元に立つことでしょうか。では、どうしたらその高次元に立つことが出来るのでしょうか。それは、自己の力では高次元に出ることは出来ないのです。では、この低次元に跳き苦しむしかないのでしょうか。いいえ、高く、広く、大きい世界に出ることが出来るのです。それは「慚愧」(天に恥じ、地に恥じる)、「懺悔」(頭が下がる)なのです。頭が下がって仰ぎみれば、既にいて、既に大いなる世界に抱かれていたと感得する世界であつたのです。

ここを清沢満之師は「自己とは他なし、絶対無限の妙用に乗託し任運に法爾に、現前の境遇に落在せるもの、即ち是なり。」と喝破されました。親鸞聖人は「妙土広大超数限 本願莊嚴よりおこる 清浄大摂受に稽首帰命せしむべし」と称えられ自ら証せられました。南無阿弥陀仏。

真の依り処

お浄土はどこにあるのでしょうか。人は生れてから死ぬまでそれだけの与えられた自己の状況に自身が納得し、心から領けるかという決してそうではない。自分に起こってくる事がどうしても不条理だとか考えられないことが出てきます。そのことを宿業因縁と教えて下さいます。この宿業因縁をほんとうに自分が必然の事実として引き受けることは容易ではありません。私は現代の社会人はともするとその宿業因縁に真向うことをきらい、何かとすり変えてしまふ傾向があるのではないかと思います。ほんとうに悩み苦しむことが尊いことだと佛様が申されています。そこには救済があり浄土の教えが開かれていきます。私はお念佛の中にこそお浄土があると思つのです。

岡田ノリ子
合掌

鈴の音

人間は我を知らず、
我ほど知り難いもの
はないのである

高光大船
(道に在り)

在、鹿兒島のご自坊で療養中です。
 櫻先生は本年一月に心筋梗塞で倒
 れられ、カテーテル手術を受けて現

【報恩講は宗祖、親鸞聖人のご恩徳に
 報謝し、いのちの道理を深く尋ねる
 法要で、一年の中で最も大切な仏事
 です。真宗門徒として必ず勤める法
 要であり、光照寺の今年度最後の大
 きい法要です。是非ともご参詣下
 さい。】

そのような事情から、本年の法話を
 住職が本講、副住職が副講として担
 当させていただきます。
 皆様とともに報恩講を勤めて参り
 たいと存じます。勤行は重厚な真四
 句目下げの『正信偈』、五洵の念仏和
 讃です。『御俗姓』も拝読します。
 ご家族、縁者お誘い合わせの上、
 是非とも奮つてのご参詣をお待ちし
 ております

副住職（釈徹照）

報恩講

報恩講

- ・ 10月26日（日）
午前11時～3時まで
（10時30分受付）
- ・ 日中法要厳修
- ・ お斎（お食事）
- ・ 法話 本講：住職
副講：副住職
- ・ 場所 光照寺本堂

※準備の都合上、出席の際はお寺にご
 連絡下さい。

ひとくち 歎異抄

羅漢：たくさんの罪業（ざいごう）をどう超えら
 れるか。

「されば、そくばくの業（ごう）をもちける身
 にてありけるを、たすけんとおぼし
 めしたける本願のかたじけなさ
 よ。」後序



阿弥陀如来の本願はわれわれ一人
 一人の罪業（ざいごう）を超え救わんがために
 建てられたのです。

川越喜多院の五百羅漢



総会 佐藤氏感話



総会 勤行



お盆 勤行



総会 南氏感話

護持会総会報告

淡海 雅子

平成二十五年度第十五回光昭寺護持会総会が六月二十九日十時より光昭寺本堂において多数の会員が参加し開会されました。

勤行（正信偈同朋奉賛）に続き、婦人部と子供たち有志の合唱に合わせ全員で仏教讃歌「真宗宗歌」・「恩徳讃」・「いのち」を合唱しました。さらに今年度は「喜びも悲しみも行く歳月」の替え歌で「光昭寺と共に如来の願いにこたえ念仏をしましう」という歌が披露され全員で合唱しました。

引き続き蓮如上人御一代記聞書より「愚者三人に智者一人」と題して佐々木玄吾師（元豊平道場主 現いづみ会館館主）よりご法話をいただきました。愚者という意識がないことは讃嘆談合の根本の喪失と求道心を失わせるものとは共通しているという御指摘をいただきました。仏法は聴聞に極り、讃嘆談合に極ります。光昭寺の皆様にも讃嘆会をして欲しいという願いとこれこそが真宗の繁盛につながるとお話をさせていただきました。

総会では佐々木玄吾会長を議長に議案に入りました。前年度の護持会活

動実績及び収支決算・監査報告がなされ、全員一致で承認されました。今年度の護持会活動計画案及び収支予算案が提案されました。会員の人数の増減に関し質問があり、副住職様より増減の内訳の説明がありました。いずれも原案通り可決承認されました。副住職様より聞法会の紹介、大塚氏より子供会（ポニークラブ）の年次計画とお誘いがありました。

御住職様から光昭寺護持会の発足の歴史を説明いただきました。また、代々伝えられてきた浄土真宗を次の世代に伝えていくためにお寺の諸行事、活動に参加していただきたいという護持への願い、御同朋としての思いを含め会員の位置づけをお話いただきました。

その後 お斎をいただきながら感話と初めて参加された方々の自己紹介がありました。副住職様、池津氏の編集の映像を背景に絵解きサークルの皆様により「親鸞聖人田植え歌伝説」「妙好人 石見の才市」が語られました。引き続き今年度は伊奈学園正調安来節同好会による踊りが披露され笑いに包まれ和やかな時間を過ごしました。

最後に恩徳讃を唱和し閉会となりました。

今後とも皆様のご支援ご協力をお願いいたします。



フラダンス



南中ソーラン



佐々木玄吾師ご法話



絵解き



安来節



集合写真

子供会報告

子供会ポニークラブ
バーベキュー&水遊び

坊守 池田 邦子

今夏も連日三十五度を越える猛暑の中、小人十一名大人十三名の参加を得て、お寺にて勤行、自己紹介の後、車六台に便乗上尾の丸山公園に移動、早速女性方と子供達は食材の準備に取りかかり、男性陣は汗だくの火おこし、焼肉と焼ソバを作って下さり、汗の結晶、美味しかったー。ペットボトルをピンにみたてたボーリング大会、広い公園を駆けまわりゲームをし、スイカ割り、水遊び等々楽しく過ごす事が出来ました。夏休み中の良い思い出となった事でしよう。皆様の御協力に感謝致します。有り難う御座居ました。次回は冬休み中の十二月に行います。沢山の方の参加をお待ちしております。会長



スイカ割り



焼肉美味しかった



水遊び



いっぱい食べた



集合写真本堂にて



集合写真丸山公園にて

お知らせ

寺務所より

◆法要のご案内

●報恩講

十月二十六日(日) 午前十一時より厳修。

●修正会

平成二十七年一月一日元旦、午後一時より厳修。新年を阿弥陀如来のご尊前より出発致しますよう。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会

●大經の会

●我聞の会

十月十一日、十一月十六日、十二月二十日、午前十時～午後三時まで。講師は佐々木師と住職の担当月別。『正信偈讃仰V』を学んでいます。お弁当持参して下さい。

●我聞の会

十月十六日、十一月二十一日、十二月一日、午後二時～四時まで。『真宗の簡要』(住職著) サブテキスト「無量寿經に聞く」(松原祐善著) を学んでいます。講師は住職。

●微風学舎

毎月開催。午後七時～九時まで。講師は副住職。「顕浄土」の教学―親鸞における現生不退の視座―(副住職著) サブテキスト「今日のことば」―真宗の

生活」を学んでいます。日程は寺にお尋ね下さい。

◆さいたま親鸞講座

午後二時～四時。会場は大宮川鍋ビル。十月十一日、十一月十三日、平成二十七年二月十四日、四月十一日、六月十三日。

◆お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。

住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。宜しくお願いします。

俳句・川柳



吉澤 光昭

山裾に大の字に寝るさわやかさ
持て余す真紅揺れけり鶏頭花
思い出もこぼして掃きぬ秋簾

西木 順子

大かぼちや葉陰にありぬ寄るやなし
とけい草蜜吸う蜂が時計まわり
足すものも引くものもなし秋の雲

山田 恒

遙かなる和平へ蟻の果し合い
終活の庭に咲いてた紅いばら

釈 義深

聞法し聞法しても初心かな
お寺には妙好人が集い寄る
夢殿を親鸞像が背負いをる
さきどりか嫌天下の我家かな

短歌(詩)



佐藤 セツ子

垂れ下がるしだれ桜の枝下を通路と
なして揚羽ぬけ行く

春来れば「なんじやもんじや」の咲く

寺に師の墓苔むし落葉に埋る

早苗田につがいの鳥降り立ちて水面ゆ

らして何にかついばむ

映像に見るさえ美しき浜昼顔昔の越

後の浜辺を憶う

浜なすの名前のいわれ知りにけりなす

びに似たる青い実を持つ

佐々木 玄吾

大きい子小さい子とが交わりて歓声ひ

びくいずみ会館

北原の五組の八軒集まりてそうめん流

しで親睦深む

赤秀 品枝

念仏となえよとあずきにこめて願う人

道禪禪師わが祖師なり

おはようおはようおはようとママと幼

児の賑やかな朝

河野 日出子

夏草の生茂りたる凄まじき一際赤き百

日紅かな

裏路地の小さき子等のはしやぎ声手持

ち花火の利那の灯り

蛸や亡き子戻りの時ならむ何を語るの

淋しき鳴き音

短夜のいつしか去りて虫の音の清しき

風に月の渡りに

梵鐘

解らなかつた聞法と私

『人間存在』というのは、世間の中を生きる間的存在です。人間に生まれて他の人々との「間」をつくらずに生きることはできません。この「間」は、それほどに人間的存在を根底から規定するものです。『真実に出遇う』岡本英夫 頂いた御本の中の一説ですが、本当にそうだと解らせて頂けるのは、日頃の聞法会のおかげです。居眠りをしてしまう私ですが、「大丈夫、教えは毛穴から入ります」と言つて励まし、慰めて頂いて、気がついたら、聞法を始め、二十年以上になりました。先生方のお話が素直に心に響いて来ます。本当に有難いと毎日感謝です。

合掌 釋尼民徳



山田 邦興 画